



六月
庚七十七號

大歲首

此段中進法如

極又之施行相承法樣取斗法依而

巨細取調當向別紙定別書三通取

大板表出張以由一實地運為之方法

大隈冬後伊蘇大花少補其外也

造幣寮事務取扱方之儀并此程

免
名
人
幹
林

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



414
A 2146
1



辛未六月十日

大藏省

雜官
中

414
A-146
2

造幣寮事務取扱規則

大正十一年四月
隈侯爵印寄

日本政府ニテ現今歐羅巴各國及ヒ米利堅
等ニ行ハル、普通ノ條規ニ倣テ造幣寮ヲ
建置シ新貨幣ヲ鑄造スルタメ貨幣鑄造
ノ制規方法及ヒ器械運用等ノ事ニ熟達セシ
外國士官ヲ約條書ヲ以テ雇入レ寮中諸簿冊
ノ制及其計算法ヲ設為スル等ノ權ヲ付與シ
而シテ其約條ニ基キ政府又ハ内外人民ノ差出

大藏省

ス地金ヲ寮中ニ受取其品位量目負數等政
府ノ制定ニ從テ之ヲ外國士官ニ通達シ其地金
ヲ引渡シ製貨ヲ受取ル等ノ事ヲ總管スル
タメ日本政府ヨリ日本士官等ヲ寮中ノ職負
ニ任シタリ

外國士官ト日本士官ト互ニ其職掌ヲ奉行
スルニ於テ相聯令シテ相悖ラサル事ヲ要スル
カタメ各其職務上ニ就テ關係スル要件ヲ

次ノ條款中ニ掲載シテ以テ其要旨ヲ著明ス
ル此職ニ在ル者ハ能ク之ヲ確守ス可シ
外國士官等ノ司掌スル事務ヲ總稱シテ工業
局トシ日本士官等ノ司掌スル事務ヲ總稱シ
テ計算局トス

但工業局トハ學術ヒツクンチ施行エキサケ工業
オペレノ諸局ヲ指命スルナリ

第ニ則

日本政府又ハ内外一般ノ人民ヨリ差出ス等ノ
金銀地金ヲ受取りテ之ヲ監守シ之ヲ貨幣
ト為シテ拂ヒ渡スカ又ハ地金ノ儘ニテ返却ス
ル等ノ事ヲ取扱フハ日本士官ノ職掌タル可
シ

第二則

外國士官ノ居住スル家屋ヲ除ク外造幣寮及ヒ
附屬ノ諸屋宅ハ都テ日本士官ノ管轄タリ故

ニ總体ノ貨幣及ヒ鑄造中ノ金銀地金ハ皆其
管轄スル庫中ニ收メテ其出納ヲ詳記スル等ハ
日本士官ノ職掌タル可シ依テ地金又ハ貨幣
鑄造ヲ取扱フ局々ニ於テ其計算ヲ掌ルタメ
日本士官ヲ以テ計算記載役ニ任ス可シ

第三則

要用ナル日本職工ヲ使役シテ地金ヲ品定整頓シ以
テ貨幣ヲ鑄造スルハ外國士官ノ職掌タリ最

此二官等ハ外國士官首長ノ指令ニ從フモノナリ
且其首長ハ日本人外國人ヲ不論同人ノ管下
ニ屬スル分ハ其事業ニ就テ要用ナルカ又ハ
之ヲ良トスルニ於テハ便宜諸規則ヲ設立スル
ノ權アル可シ

第四則

各局ニ在テ計算ノ事務ヲ取扱フ日本士官ニ
就テ詳整ナル諸規則ハ造幣頭之ヲ設立

ス可シ最モ兼テ約條書ニ從テ時々外國士官
首長ノ設クル規則ト抵觸セサル様注意スヘシ

第五則

造幣規則ニ從テ貨幣鑄造ノ為メ造幣頭
ヨリ外國士官首長へ各種ノ地金ヲ交附シ其鑄
造スヘキ貨幣ノ分量品類ヲ其時々詳明ニ告知
ス可シ

第六則

一 地金ヲ交附スルニハ造幣所ニリ地金局長ニ命シ其金ヲ經テ取扱ハシメ其量目ヲ掛改メノ上規則ニ從テ之ヲ簿冊ニ登記シ置シムヘシ且外國士官首長ノ設ケタル規則ニ從テ各局ニ在テ地金出入ノ計算ヲ明ニシ之ヲ簿冊ニ詳記シ及ヒ地金交收ノ諸證據書等ヲ取扱フ所ノ日本士官ハ都テ造幣頭ノ管下タル可シ

第七則

各局ニ在ル計算記載後ヨリ差出シタル諸證據書ニヨリ計算ノ事ヲ便利ナラシメンタメニ英文ヲ以テ完備ノ簿冊ヲ編成スル事ヲ掌ル一人ノ士官ヲ任シ其事ヲ取扱ハシム可シ此簿冊ハ毎日出納ノ查合決算ヲ要ス可シ此簿冊ハ何時ニテモ外國士官首長ノ検査ヲ受ケ若シ整理セサルコトアレハ右首長ヨリ之ヲ造幣頭ニ告知スヘシ此簿冊ハ何事ノ事故アルモ其局外ヘ出スルヲ許サス

第八則

英文ニテ記載スル計算簿冊ノ照憑ヲ為シタメ其事
ニ堪ユル日本士官ヲシテ其證據書ノ原文ヲ根柢
シテ日本文ニテ計算簿冊ヲ記載シ置ク可シ但
此事ヲ為スニ便ナルガタメニハ右ノ證據書ハ双方
ノ國文ヲ以テ之ヲ聯記セシメタリ

第九則

總テ簿冊中ノ文ニテ刷消シ又ハ補綴シアル

紙片ヲ切取ル等ハ嚴禁トス之ヲ犯ス者ハ
其職ヲ免ス可シ且又諸簿冊検査既濟後
ハ決テ之ヲ塗抹改竄ス可ラス及ヒ諸證據書
記載濟調印ノ後ニテ之ヲ書改ムルヲ得可カ
ラス

第十則

總テ計美局ト工業局ト公事ノ往復ハ造幣
廠ト外國士官首長ト之ヲ扱ヒ書面ヲ以テ

此の時ハ互ニ其回答ヲ稔旨延ル事ナカル可シ

廿十一則

火曜日ヲ除クノ外外來人ハ一切造幣寮中ニ入ル事ヲ許サル可シ最モ允許ノ日ニ當リテ一覽ヲ得セシムル者ト云斥造幣頭又ハ外國士官首長若シクハ大藏卿輔ノ免許狀ヲ持參シ且其為ノニ設ケタル簿冊ニ其姓名ヲ記載セシム可シ

皇國政府ノ命ヲ以テ右規則ヲ兼認シテ確定スル者也

明治四年辛未五月廿日西曆一千八百七十一年第七月十五日

參議從四位大隈重信印

大藏少輔從四位伊藤博文花押

十筆務施爲方法概略

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

一 明治四年辛未三月十日即チ西洋千八百七十一年第六月

二十七日附政府布告書ノ趣ニ從ヒ地金受^取方ヲ爲ス

可シ

一 何人ヲ不論造幣寮ヘ差出サント欲スル地金ノ巨細

ヲ書入ヘキ引渡目錄ノ雛形ハ申立次第相渡ス

可シ

一 地金ヲ受取リシ節ハ仮ノ由 取書ヲ渡スヘシ但

試驗熔解之書
第一號

第一號ノ雛形ヲ見ル可シ

一若試驗融解ヲ要スル地金ナル時ハ外國長官ノ申

立ニ依リ熔解所へ渡ス可シ而シテ第二號熔解

證書ヲ以テ巨細ノ事ヲ計算方ニテ書留メ置

ク可シ

試驗表第一號
雛形

一試驗熔解ノ後試驗方ヨリ第三號ノ雛形通

リ外國長官へ試驗表ヲ差出ス可シ右受取ノ

上外國長官ハ地金ヲ請クヘキ旨書翰ヲ認メ

外國長官第一號
試驗表

地金ノ價ヲ取請ハ之ヲ定ム可シ此旨翰ハ外國

長官記名シ試驗表ノ寫_{但ニ}ヲ添へ造幣頭へ

送ル可シ

一試驗熔解セシ地金塊ハ極印并ニ番號ヲ打

テ同方并ニ品位ヲ刺シ置ク可シ而シテ後之ヲ

地金局へ返達スヘシ是ニ於テ試驗熔解ノ登

書ヲ計算ス可シ

一量目并價ノ知レタル地金ハ唯モ其地金ヲ試驗

價不明ナル地金ノ
事第五號條
ヲ見ル可シ

大藏省

價、明ナラズル地
金、小片
第五号録示

一 証明ニ地金ノ價取調ニ便宜ヲ外國長官
ニ與フル為メ試験方ノ表并其他ノ書留メラ同
人へ送ル可シ其後最前ノ如ク地金ヲ受取ル
ハ之旨ノ書翰ヲ認メ試験表等ト共ニ造幣頭
へ送ル可シ

一 地金局ニアル金銀塊ヨリ試験ノ為メ切取りタ
小片ヲ試験方ニテ試シ上ハ價不分明ナル地金
モ右同様ノ手續ヲ以テ請取ルニ而シテ試

試験ノ為メ
小片受
取

驗方ハ外國長官ニ其試験表ヲ送可シ外
國長官ハ最前ノ如ク造幣頭請印ノ為メ地
金ヲ請クヘキ旨ノ書翰并試験表ヲ送ル可シ
一成ヘク丈ケ試験ノ為メ請取ルヘキ小片ノ地金請
取書ヲ差出スヘシ残り地金ハ急速ニ地金局へ
返達ス可シ

一 分析法 ウエットエッセー
フロセス ニ於テ面倒ヲ生スヘシト雖モ
試験ノ為メ受取りニ金屬ヲモ延引ナク試験

大蔵省

方ヨリ返達ス可シ

一 精製ニタル地金ノ價外國長官ニ依テ證認セシ
 後造幣頭ヨリ地金持券人へ自分記名セシ
 地金ヲ請クヘキ書翰并ニ其節ノ都合ニ寄
 リ日本語或ハ英語ニテ書メタル試験表寫ヲ送
 ルヘシ若其書類ヲ三日ノ余地金持券人ノ手ニ
 留メ置ク時ハ其地金ノ價高ラシキ事ヲ
 看做シ右地金ヲ貨幣鑄造ニ取掛ル事ヲ

造幣頭
一

出
一

得ヘシ

一 造幣寮精製所ニ要スヘキ地金ハ外國長官ヨリ
 書面ヲ以テ造幣頭ニ掛合テ之ヲ受取ル可シ
 一 仕事場各局ニテ地金ヲ要スル時ハ外國長官
 ヲヨリ造幣頭へ右渡方ノ掛合ヲ為ス可シ
 一 鑄造セシ貨幣ハ外國長官許諾ノ上地金局へ
 引渡ス可シ其貨幣ヲ聖朝地金局ニ於テ計集
 シ改メテ為スヘシ其節向來試驗ノ為メニ右貨幣

造幣
一

仕事場各局
一

大藏省

ノ内ヲ政府ノ命令ニ從テ取除ケ置ク可シ
皇國政府ノ命ヲ以テ右施為方法概要ヲ承認シ
テ確定スル者也

明治三十四年五月廿八日 西洋千八百七十二年七月十日

參議院四位大隈重信下

大藏少輔從四位伊藤博文花押

皇文ハ造幣既
右洋文ハキンドル
ハシテ

毎年製幣試験分析定則

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

第一條

日本政府ノ造幣寮ヨリ發弘スル貨幣ノ品位及
則通りニ適正ナルヤ否ヲ検査スル為ニ毎年一度
造幣寮ニ於テ試験分析ヲ為スノ集會ヲ催フ可シ

第二條

此集會ノ全權ハ大藏卿輔ノ一人ニシテ其他ハ日本
政府ニ勤仕スル日本士官并分析學術ヲ心得

タル中外者ヲ其時ニ當リテ政府ヨリ掄擇シテ
此會ニ臨ミシム可シ

第三條

此集會ノタメニ造幣頭兼テ其用意ヲ為シ都
テ鑄造ノ貨幣外國長官ニ依テ造幣頭ニ引
渡ス度毎ニ造幣頭ハ各種ノ貨幣若干個自
取除キ之ヲ外國長官ノ眼前ニテ封包シ造幣頭
ト外國長官ト共ニ其封印ヲ為ス可シ

但造幣頭右貨幣ヲ取除クニ付テハ此ニ之ニ関
係スルヲ得ス

第四條

右封印セシ貨幣ニハ日本語ニ并英語ニテ其種類
負數及請取リシ日限其外巨細ヲ認メタル書付ヲ
添ヘ地金局ニアル筐中ニ入レ置キ両方ノ長官立
合ノ上ナラテハ決シテ之ヲ開ク可ラス

第五條

大藏省
每歲試驗分析爲ノ備ヘ置ク各種ノ貨幣ハ
地金局長ニテ之ヲ預リ而シテ右貨幣ノ員數種
類并封印之日限等其爲ノ別段設ケル帳
面書留置ク可シ

第六條

二十圓金十圓金五圓金ハ千枚毎ニ一枚宛ニ圓金
一圓金ハ五千枚毎ニ一枚宛ヲ造幣頭取除ケ置ク
可シ

第七條

一圓銀ハ五千枚毎ニ一枚宛ヲ取除ケ置ク可シ

第八條

銀定位貨幣ハ其品類ニ不拘貨幣員數二千枚
毎一枚宛取除ケ置ク可シ

第九條

毎歲試驗分析ノ節列帝ヲ命セラレシ諸士官
ハ其當日造幣寮ニ集會ス可シ

古士官等イ目前ニ於テ造幣寮試験方其手續ヲ為スヘシ其節政府ノ存意ニ依リ造幣寮試験方ト共ニ其事ヲ取扱フ為メ別ニ試験法ヲ任ヌル事アル可シ

皇國政府ノ命ヲ以テ前條試験分析ノ規則ヲ設立スル者也

明治四年辛未五月廿八日西洋千八百七十二年第七月十五日

參議從四位大隈重信印

大藏少輔從四位伊藤博文花押